

“ 生命第一 ”

～ 地震災害に備える ～

株式会社リンテック21

1

大規模地震が起きたら 何を守りますか？

ご自身の**“命”**です。



2

“命”は助かりましたが…



あちこちで
けが人が

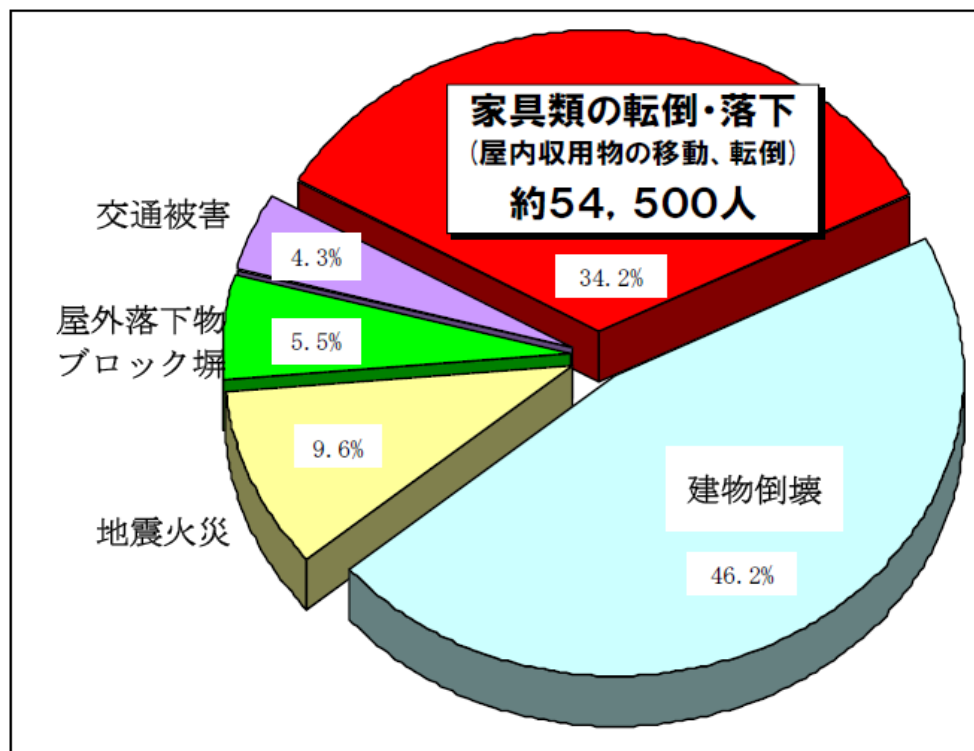


- 電話は繋がらないので通報できません。
- 救急車も足りません。
- 医療機関も通常の機能は発揮できません。
- 道路も寸断されている可能性も有ります。

2-1

家具類による負傷の危険

タンスや棚などの家具類の転倒、落下物による被害が負傷原因の約3割～5割



東京湾北部地震による負傷者数の想定

*参考「首都直下地震による東京の被害想定」
(平成18年3月東京都防災会議)の東京湾北部地震(M7.3冬の夕方18時)の負傷者(都内全域)

負傷者数の内訳(人)	
ゆれ液状化による建物倒壊	73,472
家具類の転倒、落下 (屋内収容物の移動、転倒)	54,501
地震火災	15,336
交通被害	6,821
ブロック塀	6,761
屋外落下物	2,037
急傾斜地崩壊	229
合計	159,157

そのため、事前対策について重量物の移動、転倒落下を防ぐ、退路確保、避難時間を取ることが極めて重要です。

2-2

“家具の移動・転倒・落下防止対策” はできていますか？

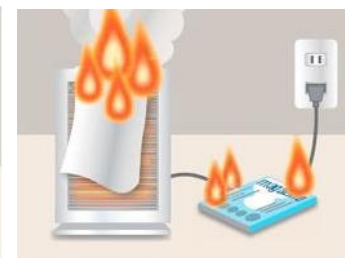
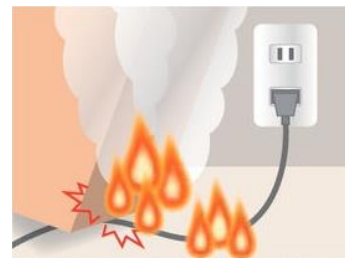


対策



3

“身体”は無事ですが…



あちこちで
火災が発生



- ・電話は繋がらないので通報できません。
- ・消防車も足りません。
- ・消防団も手が回りません。
- ・道路も寸断されている可能性も有ります。

3-1

身体の次に守るものは何ですか？

それは家です。

家が倒壊や焼失してしまったら財産はもちろん、せっかく備蓄した食料や医薬品も失ってしまいます。

「いざという時は、消防車や救急車を呼ぶから平気！」とお考えの方、消防車も救急車も台数に限りがあります。もちろん、隊員も同様です。大地震の時は、呼んでも助けに来るとは限らないと考えておきましょう。

まずは、

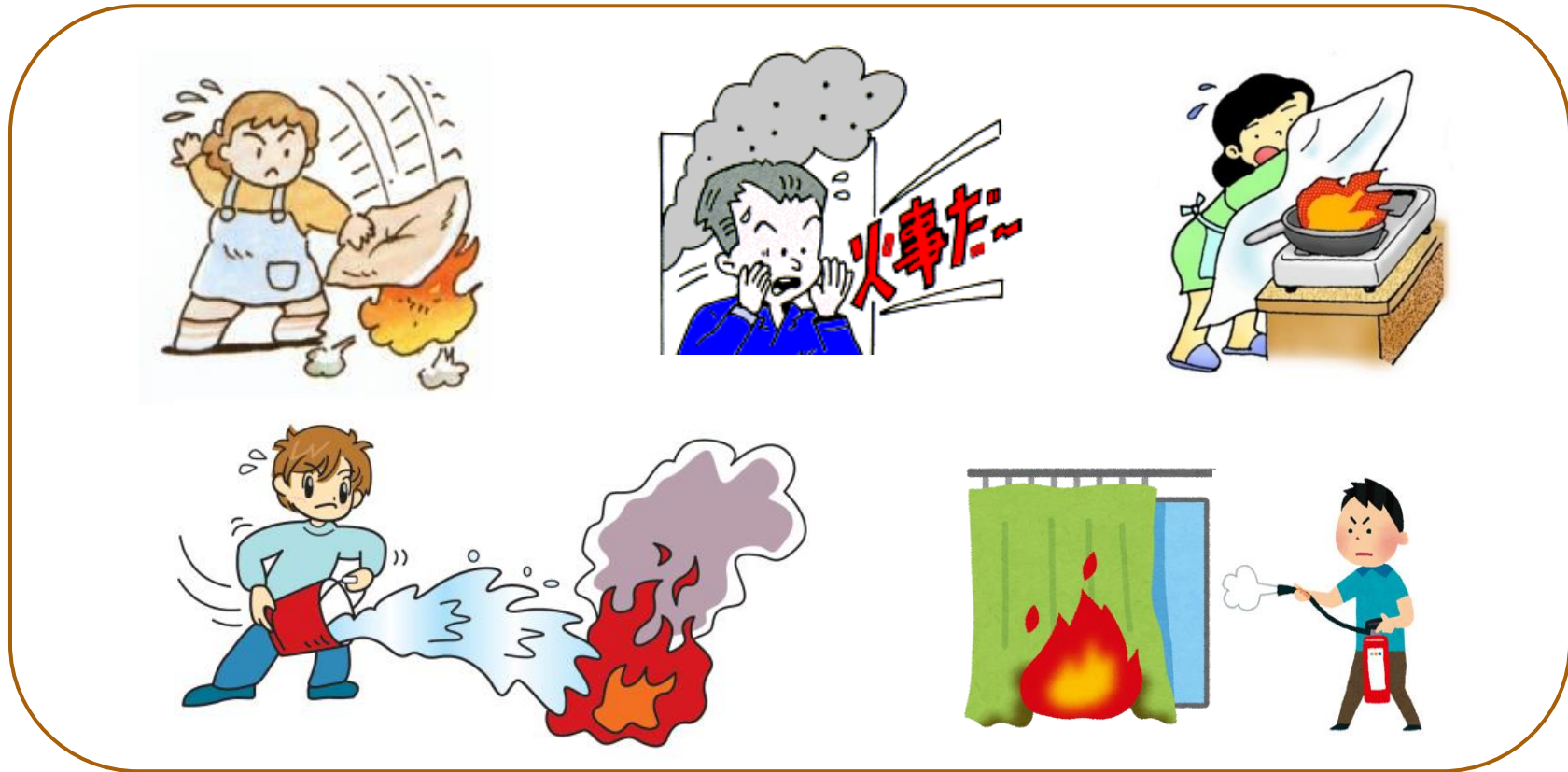
- ・ 家屋や家具を倒壊させない
- ・ 火を出さない
- ・ 火が出てしまったら自分で消火する



これらを念頭に何が準備できるのか考え取組んでいきましょう。

3-2

“火が出た場合” 対処できますか？



- 正しく消火器を使えますか？
- 天井に火が届くまでが自身での初期消火の範囲。
天井に火が回ってしまったら、ご自身での消火は困難です。

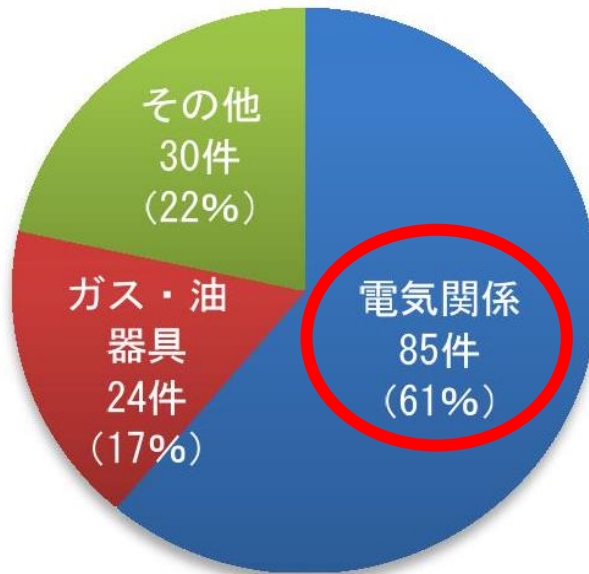
3-3

電気関係の火災発生状況

(※出展 産業構造審議会)

(参考) 大規模地震時における火災の発生状況 ※

※出火原因が確認されたもの



〈阪神・淡路大震災〉
139件の火災のうち、
電気火災は85件
(約6割)



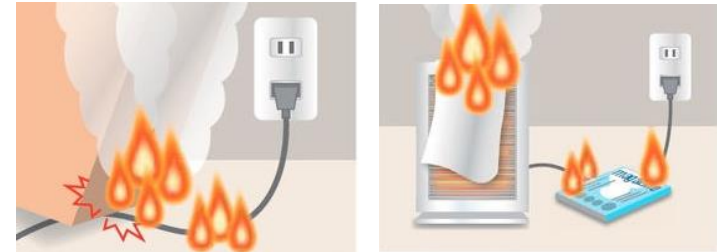
〈東日本大震災〉
110件の火災のうち、
電気火災は71件
(6割強)

3-4

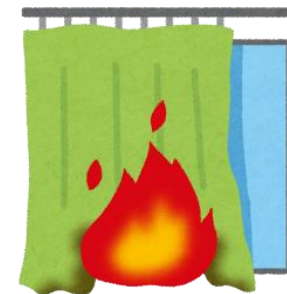
“電気による火災”の原因

一旦停電した電気が通電した時に・・・

- ・テレビや冷蔵庫などのコードが倒れた家具で踏みつぶされて傷付いてしまいショート



- ・電気ストーブにカーテンやタオルや紙類など熱源に触れて引火



- ・トースターの熱源部分にパンくずが振り掛かり着火



3-5

“通電火災対策”はできてますか？



通電火災とは、
大規模な地震などに伴う停電が復旧し、
通電が再開される際に発生する火災のことをいいます。

4

“大規模な地震が発生”すると何が起こる？

- **火災**：火傷や焼死。家屋の損傷、焼失。
- **家屋の倒壊**：けがや圧死。
- **家具の転倒**：けがや圧死。
- **停電**：照明が切れ、夜間では真っ暗闇になり危険。
冷暖房が効かず、冷蔵庫は中の物もダメに。
電源使用の電話機も使用不能に。
- **通信の遮断**：緊急通報ができない、安否確認が困難。
- **ガスの遮断**：調理や入浴ができない。
- **水道の遮断**：水を飲めない。洗い物ができない。
風呂も入れず、トイレは不衛生な環境。
伝染病の発生も危惧される。
- **ゴミの放置**：ゴミ収集がされず不衛生な環境。
伝染病の発生も危惧される。
- **道路の寸断**：消防・救急の到着の遅延。
避難経路が閉ざされる。

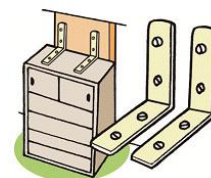


5

具体的に何をすべきですか？（1/2）

- ・ 家具の転倒防止を行う。いろいろな種類の転倒防止器具があります。

家具の転倒防止器具ではL字金具や突っ張り棒が一般的ですが、L字金具は家の壁や家具に穴を開けるため傷が付いたり見た目もよくない、また突っ張り棒は正しい設置位置（天井の梁等）に合っていないと効果を得られません。最近は両面接着で固定する製品もあるが、一部接着しない壁材があります。ご自宅の状況に合ったものを選びましょう



- ・ 火災に対する備え。火災を起こさない取り組み。

使用可能な消火器を必ず用意する事と、正しい取扱方法を覚えましょう。そして火を出さない仕組みを作りましょう。阪神淡路大震災や東日本大震災で発生した大規模な火災の内、約6割は電気が原因です。この電気火災を防ぐにはブレーカーを切るのが有効ですが、実際の大規模地震ではなかなかできるものではありません。自動的に電気を遮断する感震ブレーカーの設置をお勧めします。



5

具体的に何をすべきですか？（2/2）

- ・ 大地震の際の停電も想定し、懐中電灯を用意。

大地震では、高い確率で停電が起きます。特に夜間は暗闇で身動きが取れなくなり、懐中電灯・非常用ライト・ランタンなどの**照明器具**は必ずご用意ください。それらは、分かり易い場所を決めて置いておくことが必要。また、情報収集用として**ラジオ**(乾電池式や手回し発電付き等、電源が無くても使える物)も用意しておくといざという時に便利です。

- ・ 発災後、備蓄食品の前に、まずは冷蔵庫内の物から消費。

消費しきれないほどの食材があれば、傷む前に炊き出しへ供出する事も可能。備蓄食品はそれから消費する。
バーベキューセットやカセット式コンロを用意し調理が可能な体制を整える。
飲料水を確保する。（消費期限を過ぎた水も飲水以外に活用できる）
ゴミをなるべく出さないように工夫しましょう。



6

避難をするかしないか

避難所での生活はプライバシーがないと考えなければなりません。
なぜならば狭い空間に地域の方が大勢押し寄せるためです。

避難所は、その場所を本当に必要とする方が生活する場所です。
周囲も含めご自身の家屋が倒壊や火災の危険性が無いのであれば、
インフラや食料の確保などに必要な時間だけを避難所に滞在しましょう。

ご自身もご近所の方もストレスをためず、良いご近所付き合いを続けられる
よう、先のこととも考え、発災直後の安否確認や情報収集後、ご自宅へ戻ること
が可能な方はご自宅での生活をお勧めします。





LINTEC21